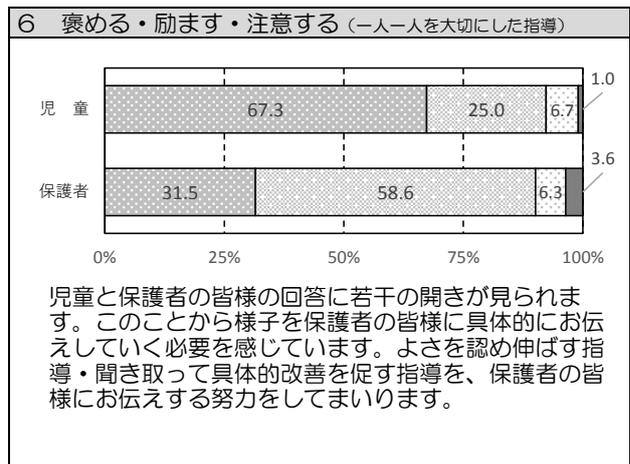
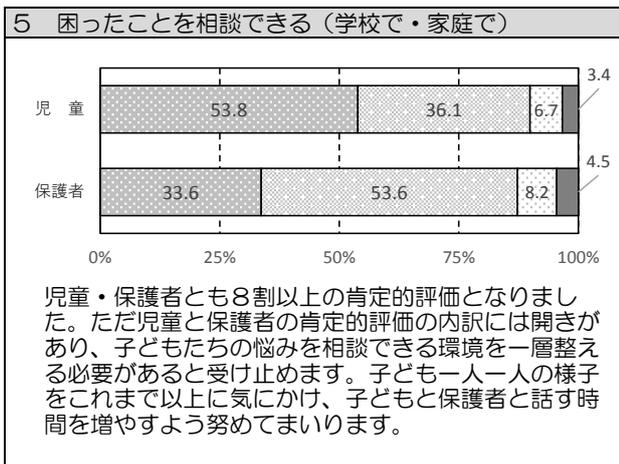
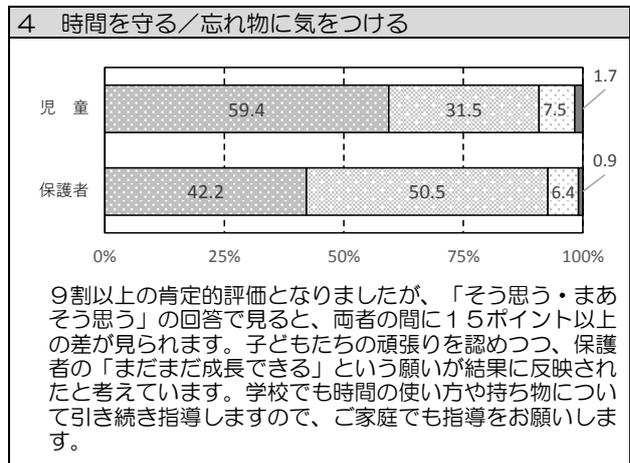
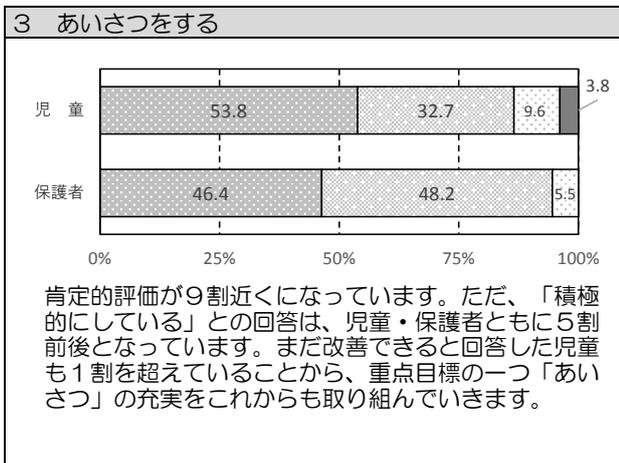
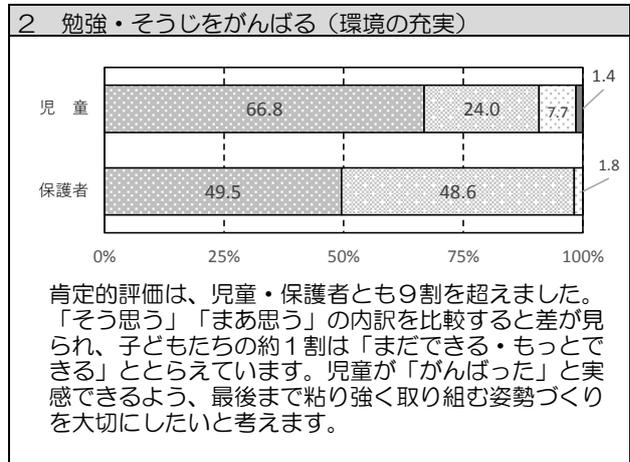
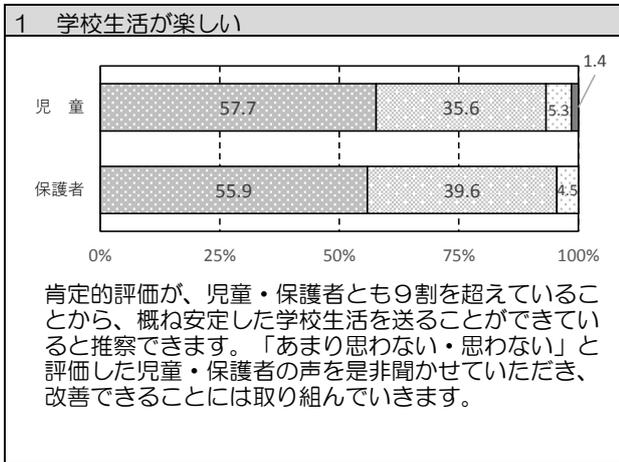


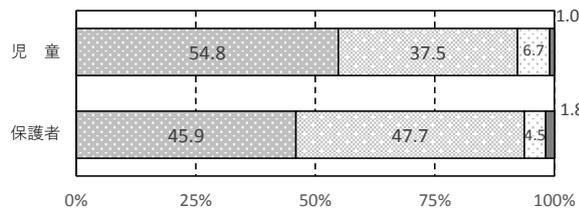
学校評価アンケートのまとめ（報告）

過日ご協力いただきました学校評価アンケートについて、子どもたちの評価と合わせてご報告いたします。

（ 肯定的評価 … ■ そう思う ■ まあそう思う , 否定的評価 … □ あまり思わない ■ 思わない ）

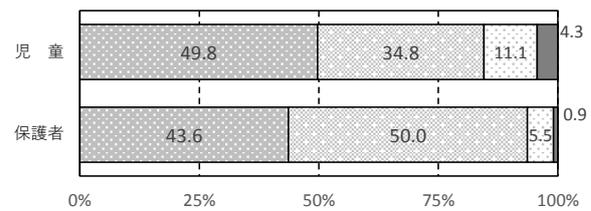


7 わかりやすい授業



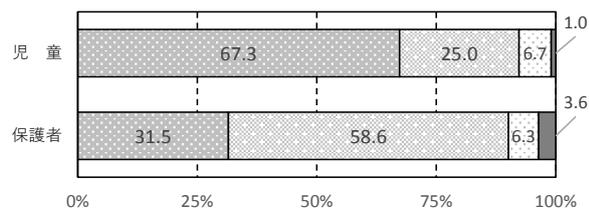
十分理解できるという評価は、児童・保護者とも5割前後でした。この結果から、学校では日々の授業が「よくわかる」という評価を7割以上まで目指したいと考えました。分かりやすく子どもたちが活躍する学習となるよう、授業改善に努めて参ります。また、よく分からないと答えている子どもたちが分かる喜びを味わえるよう、一人一人に寄り添った学習を心がけてまいります。

8 考えを出し合う学習づくり



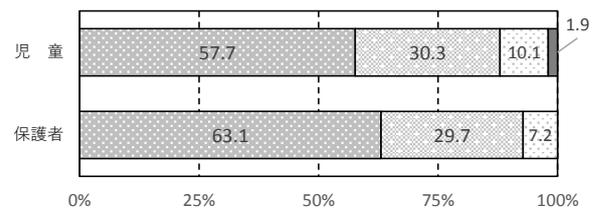
児童に考えを出し合うことに躊躇する様子が、1.5%ほど見られたことに注目しています。授業に参加する楽しさが味わえるように、学習の場づくり、意見を出しやすい雰囲気作りに努めます。

9 落ち着いた学習づくり（聞く・話す）



児童・保護者のとらえに大きな差が見られます。聞き・考え・話すことは学ぶ基本で、人を尊重することにつながっており、学校でも大切にしたい項目です。今後も丁寧に指導してまいります。

10 家庭における会話（学校の出来事を話す）



児童・保護者とも家庭において学校での出来事について会話を持つ習慣があるという結果が表れています。全国学力・学習状況調査の分析からも家庭における会話内容と学力についての関係性が指摘されています。引き続き保護者の皆様にも、家庭での会話時間を大切に考えていただければと思います。

学校全体にかかわって、寄せられたご意見から

1 学校のよさ

- 「子どもが、『学校が楽しい』と言っている」「細やかに見ていただき、ありがたい」「勉強する姿勢が以前より身についた」等のご意見をいただきました。
- 一方で、「担任の指導に萎縮してしまうこともあるのではないか」「もっと楽しく学習できるように工夫してほしい」という意見もいただきました。

児童への接し方、児童が楽しく学べる授業づくりは、学校が日々努力していくべきことです。このことについてお気づきの点は、遠慮なく担任、または学校相談窓口（教頭、養護教諭、特別支援コーディネーター）に声をかけてください。

2 学校への意見

- 家庭と学校との連絡帳の扱いや、個人情報を慎重に扱ってほしいという意見をいただきました。

欠席連絡は、基本、連絡帳をお願いしています。他にも、連絡帳には相談等の大切な情報が書かれておりますので、家庭への渡し間違えが起きないように、扱っていきます。個人情報については、写真掲載等の確認を年度初めのアンケートで確実に確認します。併せて、保護者の許可なく情報を第三者に提供しないことを、職員に徹底しています。

- 「英語（外国語）が導入されるので、空き教室を活用（英語のポスターやアルファベット、絵本を展示）して、休み時間に子どもが利用したり、その場で授業したりできるとよい」という意見をいただきました。

空き教室等を利用し、日常的に英語に触れられる環境を整えていきたいと考えています。

- 行事について「運動会の組体操の廃止を」「リレー競技の実施を」「スケート教室の実施を」という意見をいただきました。

体育的行事（運動会、スケート教室）の実施と内容については、指導時間と指導内容、安全の確保等を考慮し、次年度の予定を決めてまいります。

- 「人数の多いクラス等は、校内でサポート体制を整えて支援してほしい」という意見をいただきました。

人数の多い学級等への校内サポート体制は、支援員（教員補助員）の学級への支援時間を増やす、地域の学習ボランティア等を募集し、学習に協力いただくなど、具体的に検討していきます。

3 学校関係者（旭ヶ丘小学校コミュニティースクール運営委員会）による評価

- 1・2年生のスケート教室が予定になく、保護者からの「残念」という意見もわかる。一方で、エムウェーブが国のトレーニングセンターに指定された施設で予約も思うように取りにくく、他校のスケート教室では、過去に大きな事故も起きたことも学校の説明で理解できた。行事は、教育活動全体の中で考えてもらえるとうい。
- 「学校が楽しい」ことが一番大切。学校全体の結果はもちろんだが、学年やクラスによっても、きっと結果は異なると予想される。「楽しくない」と回答した1.4%の児童も含め、児童一人一人を丁寧に見てほしい。また、子どもが感じる「楽しい」の中身も、詳しくとらえていくことに努めてほしい。
- 質問項目6 児童自身が、または我が子が「認められている」と思うかについて、児童と保護者の差が大きく出ている。この差を今後小さくしていけたらよい。質問項目10を見ると、実は、子どもも親も学校の話をもっとできるのではないかと。親からしかられた、褒められたなども、学校であったことを直接聞いたり話したり大切にしてもらいたい。
- 子どもとゲームの状況を伺うと、今は不特定多数の人とできるゲームもあり、中には、戦いや傷つける内容のものもあるとわかった。今年度、学校が実施した情報モラル講演会や授業は大切な取組である。ぜひ、このような機会を続けて欲しい。また地域や保護者と一緒に学びたい。
- 50周年行事を迎えることで、ぜひ、地域との結びつきも活かしてほしい。地域ふれあい教室のような行事の他にも、今年度の家庭科支援のように、学習ボランティアの輪を日常的に広げたい。協力いただける方は、たくさんいると思う。